

# 粟国島海域ダイビングの[基本ルール及びマナー]

※見出しの部分はかつてから粟国島側から伝えられた内容です。アルファベットの部分は誤解や解釈の相違がないようにするための補足です。

## 1. 島の船がいる間はエントリーをせず、エキジットするまで船上待機

- a. 島のボートが筆ん崎にいるときは、本島のボートは筆ん崎周辺に立入らない。
- b. 島のボートがいるときは、潮見やギンガメ玉探しも行わない。
- c. 四之瀬（四之瀬の北の根を3.5瀬と言っているところもあるがそこも含む）でエントリーして、四之瀬で上がればOKなど、言葉尻を都合よく捉えた解釈はしない。
- d. 一之瀬と二之瀬は繋がっていて、まとめて一之瀬と呼んでいる人もいますが、ここでは一之瀬から四之瀬すべてが対象であり、筆ん崎全体が対象である。
- e. 粟国島の方から個人的にエントリーしてもいいと許可を得ることができたとしても、本島のボートはエントリーを自粛してください。このような行為をするとうールの意味がありません。

## 2. 水中で水中ホーンやタンクを叩くなどして音を発生させる行為の禁止

- a. 緊急時以外はあらゆる音がでる器具や器材を使用しない。
- b. 筆ん崎では中層にフロートを上げる通称「ホイホイ」という行為や、ペットボトルを叩いて魚を寄せるなど、あらゆる作為的な魚寄せ行為は行わない。

## 3. ドリフトダイビング等の際、筆ん崎と粟国島との間で浮上しない（地元漁船の航路になっている）

- a. もちろん、四之瀬（四之瀬の北の根を3.5瀬と言っているところもあるがそこも含む）やあらゆる筆ん崎周辺でのアンカーリングも禁止です。

## 4. 一之瀬、二之瀬、三之瀬の各瀬の間でのエントリー、エキジットの禁止

- a. エキジット時に島のブイの近くで上がらないこと。島のボートが出れない、入ってこられないときがあり迷惑しているそうです。
- b. 三之瀬と四之瀬の間にも島のブイがあるため、そのブイに島のボートが係留し

ているときには本島のダイバーチームのエキジットは十分に島のボートとダイバーに配慮すること。もちろん、島のボートが係留しているときには1のaにあるように筆ん崎には立入らないし、エントリーも出来ない。

## 5. 筆ん崎に設置しているブイは使用禁止

- a. もちろん、アンカーリングも禁止

## 6. 栗国島の東～南、ウーグから通信塔前までダイビング及びアンカーリングは禁止です。筆ん崎もアンカーリング禁止です。

- a. 海況の悪化、事故の発生など、特別な理由がない限り、緊急時以外は島の港には入らないでください。
- b. やむをえない場合でも、必要以上に港へ上陸しない。

## 7. ギンガメの玉に突っ込まない、その上にエントリーしない

- a. 「たまたま真下にいました」もダメです。見れば分かること。
- b. 「ギンガメ玉がこちらに寄ってきたのでしょうかない」もダメです。移動して避けてください。
- c. チーム同士がすれ違う際や、交差する場合はガイド同士でアイコンタクトをとってゲストが交錯しないように十分にゲストをコントロールしてください。

## 8. 魚の観察待ちは海底か岩陰で行う（中層禁止）

- a. 海底や根浴いで観察してください。

## 9. 上記ルールを守らないガイド、ダイバーには注意して下さい！

- a. ゲストの手前、船上から怒鳴って注意したり、ゲストが気分を害するような注意方法は避けてください。
- b. 個別に船長の携帯電話などに連絡するか、各所属団体の理事の連名で文章による注意を行なってください